第９回白石町学校統合再編審議会会議録　（要約）

日　時：令和元年１２月１７日（火）１９：００～２０：３０

場　所：白石町役場　３階大会議室

出席者

　　　🔶審議会委員２０名

　　　🔶事務局

　　　🔶企画財政課職員

　　　　進行：学校教育課長

１　開会

進行：皆さん、こんばんは。今日は２人から欠席の連絡をいただいております。その他の方はご出席でございますので、若干早いですが、始めたいと思います。現在２２人の委員の内、只今の出席は２０人でございます。「第９回白石町学校統合再編審議会」を開催させていただきます。

では、お手元の「審議会次第」により進行させていただきます。

２　会長挨拶

進行：松尾会長にご挨拶をいただきます。

会　　　長：皆さん、こんばんは。１２月の押し迫った中に、そしてまた昼のお仕事の終わりで、お疲れのところにこうして集まっていただきまして、大変ありがとうございます。前回は白熱した議論をいただきました。学校の数を１校にするか、２校にするか、あるいは３校の意見もありました。また、校区をどうするかというような意見もございました。今日は前回の続きということで、学校の数、校区をどうするか、こういったことを中心に進めて行きたいと思いますので、皆さま方の活発な議論をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

進　　　行：ありがとうございます。

３　前回会議録の確認

進行：前回会議録をお配りしていたが、何か誤りや不適切なところはなかったか。

（特になし）

進　　　行：それでは、これで公開とさせていただく。

４　議事

進行：それでは、次第４、議事となるが、ここからの進行については、松尾会長にお願いする。

議　　　長：それでは、皆さま方のご協力をよろしくお願いする。

1. 審議（小学校の再編策について）

まず、委員より事務局の方に資料の作成依頼があっているので、その依頼理由について、委員から説明をいただきたいと思う。お願いする。

委　員　A：皆さんこんばんは。資料の請求をしました。今後の子どもたちの人口減少を考えた時に、私は最初から１校がベストではないかなというような考えでいたところ、前回ぐらいから適正規模の議論が出てきたので、いろいろと考えているところであります。そこで、事務局の方に２つの資料をお願いしました。１つは1校９００人規模の学校にした場合、いつまで続くのか。あと１つは適正規模になるまでの間、みんなの努力で何とかやりくりできないのか。以上の２つです。わたしも子どものことを一番に考えるべきだと思っています。だからこそ、わたしの持論では、２校にしてすぐにどちらか１校が適正規模を下回るようであれば、今回の統合再編は何だったのだというふうに思います。１校にして、適正規模を超えている期間が短く、その間何とかやりくりできれば、全地域の児童が１学年２学級以上の仲間と勉強できると考えております。わたしも１校にこだわるわけではありませんが、より最適を求めて、１校がいいか、２校がいいかの議論を深めたいと思う。

事務局より資料説明【資料５３】

議　　　長：ただ今、資料の説明があったが、質問ないか。

委　員　A：資料からいくと、１校の場合、令和１７年から２２年くらいの間で適正規模になる見込みである。そこをどう考えるか。それまでの間、大規模校を辛抱できるか、できないか、そこら辺のことが非常に気掛かりである。２校の場合は、順調に推移するが、有明地域が令和１７年あたりから少なくなる見込み。そこら辺の議論を深めていきたいと思う。

議　　　　長：ただ今、説明があった。１校の場合と２校の場合、それぞれ学級数が書いてある。１２から１８学級というのが適正規模となっているが、２校の場合を見ると、白石・福富地域は遅くまで適正規模で推移するわけだが、有明地域が令和１７年頃には１０学級になるというような推移になっている。その辺をどう見るかということになる。前回に続き１校がいい、２校がいいというようなことで、議論を進めていただければと思う。

事　務　局：もうひとつ委員の方から、大規模の小学校ではどういう工夫をしているかというのを調べるようにというお話があったので、その報告をさせていただきたいと思う。口頭で、説明させていただく。

県内の大規模小学校に問い合わせをしたものである。ただ、今から説明する事例は、最初から９００人規模の大規模小学校だったわけではなく、もともとは５００、６００人規模の小学校であったが、それが宅地造成等で児童数が増えて９００人規模になった学校の例である。前回少し話が出たことの繰り返しにはなるが、いくつかお話しする。

全校児童が校舎を移動する時には、例えば３階建て校舎だと、１階２階に低学年、中学年の児童、３階に高学年の児童がいるとして、それが一度に移動すると、低・中学年の児童を、高学年の児童が押し倒してしまう可能性が出て来るので、時間を分けて移動させている。まず１階の低学年から、中学年、高学年と時間をずらして順に移動をするよう指示を出す必要があるとのこと。小学校の場合１コマが４５分だが、移動での行き来に１５分、１５分の３０分掛かるので、４５分中集会ができるのは１５分となってしまう。このように非常に移動時間が掛かるので、全体集会は取りやめ、テレビ集会に切り替えているという学校があった。それから、卒業式には全学年での出席が困難なので、低学年は卒業式には参加せず、別途６年生とお別れ会を開催する学校がある。

それから、特別教室や理科教室等の不足もあげられる。特別教室の使用については、高学年の方が比較的多く、低学年の方が少ないので、カリキュラムを作るにあたり、同じ時間帯に高学年と低学年を組み合わせているとのこと。しかし、学校行事でカリキュラム変更をする時は、それが難しいので、最終的には理科の実験用具を普通教室に持ってきて実験をせざるを得ないという工夫をしているというお話だった。

それから、プールが複数学年、複数クラスでの使用になるので、面積的に半分ずつ使うなどして工夫をしている。ただ、１人あたりの泳ぐ時間は短くならざるを得ない。

保健室においても、児童数が多い為にいつもいっぱいで、養護教諭を２人配置しているが、それでも対応できないので、「よほどの時ではないと保健室に行くな」という指導をしているということだった。

また、図書室において、一度に児童が来ては、本のバーコード読み取りの時間が足らず、次の授業時間に食い込んでしまうということで、本を借りるのは学年ごとに曜日を決めて週に１回、という指導をしているという話。

根本的な解決というのは、やはり学校を分けることであり、例としては武雄市などがある。

それから、今は大規模だが、今後減少が見込まれるので、増設した教室については、後々老人介護施設に転用できるような建築をしているという学校もあった。以上が、大規模小学校での工夫対応の報告である。

議　　　長：ありがとうございました。只今の事務局の説明も含めて、何か質問があればお願いする。

委　員　B：児童数の話だが、前回の時は令和８年度の予想で有明地域は２８２人と出ているが、今回の試算では令和１２年度で２８８人となっている。数字がどんどん変わっている気がする。

事　務　局：今回の資料は、基となるデータが違う。資料４４で示した２８２人というのは、住民基本台帳（一部据え置き）を使った数字である。住民基本台帳については、今現在生まれている方までの数値しかなく、将来予測が立てられないので、今回は、社人研データを使用したところである。

委　員　B：白石・福富地域と有明地域の児童数を、２対１で分ける方法が乱暴ではないかと思う。社人研の数値で、町内の児童数の推計をとるのはいいのだが、それを有明地域とそれ以外のところで分けるときに、令和８年の数字は実数なのに、その実数よりも多くなってしまっているのは、割合の作り方がおかしいのではないかと思う。

事　務　局：確かにそうだと思うが、社人研の方は、字別に出ていないので、こういう作り方になった。下の方にも書いているが、平成２７年度から３１年度の５年間でいうと、ほぼ２対１の割合で推移していたので、一応今回こういう分け方をさせていただいている。言われるとおり、確証はない状況。

委　員　B：ただ、実際のところで言うと、令和１７年度より前に有明地域の学校が適正規模を下回るということは想定できる。なのに、どうしてこの数字で議論しないといけないのかというのがちょっと気になる。

事　務　局：あくまでも将来推計を見たかたち、将来こうなることも分かっていただいた上で、今回審議をしていただきたいということで資料を出した。

委　員　B：将来そうなるということは、もっと早くそうなるということを言わないといけないのではないか。有明地域においては、令和１７年より早く、適正規模を下回るのではないか。そのことが想定されるのではないか。

議　　　長：これは社人研の数字であり、何か尺度がないといけないということで、こういったデータを使っている。また、今の小学生の児童数の実態が、白石・福富と有明において、おおよそ２対１になっているということで計算してある。ピシッとした数字が出れば一番いい訳だが、あくまでもこれは社人研の数字で、２対１というのもおおよその割合である。例えば、令和１２年に１２学級、令和１７年に１０学級ということになっているが、このスピードは果たしてこのとおりになるかどうかというのは分からないが、一応傾向として、こういった捉え方をして議論していこうかということなので、その辺はご理解いただきたいと思う。一番いいのはピシッとした数字が出るのがいいのだろうが、それぞれの推計で議論をしていかざるを得ないというふうに思う。

委　員　A：校長先生がいらっしゃるのでお聞きするが、今説明があったものは、許容できない範囲なのか。

委　員　C：許容というか、物理的に数が多くなるとそうなるということであって、今現在単学級であっても、時間差で入退場するなど、いろんな工夫はしている。あと、養護教諭の問題があったが、実はこれはとても大きな問題で、今実際、怪我で保健室に行く児童というのはそんなに多くなく、心身を含めた不調等で、養護教諭の役割が非常に大きくなっている。そういうことで、２人態勢になってもなかなか難しいだろうというような予測はつくところである。

委　員　D：大きかったら大きいなりに、時間を掛けて移動するのであったり、理科の授業でも普通教室で行うなど、工夫していけば、なんとか対応できると思ったりはする。ただ、今学校で気を遣っているのは、個別の支援や、よりきめ細やかな指導が必要な為に、そこに人的配置をお願いするような、今の時代に必要な準備ができるのかということ。それは大きければ大きいほど、危険性が高く、そういう条件自体が多くなるわけなので、できれば規模的には適正規模の方が、より良いと考える。

議　　　長：いろいろ意見があるかと思う。１校で適正規模を超えていても、しばらくはいろんな工夫して学校運営をし、その間児童には辛抱してもらう。あるいは２校の適正規模でとりあえず進んで行って、後々また児童数が減れば１校にしていく、という議論がその前からずっと行われているが、今日もこういったかたちで、議論を進めていきたいと思う。皆さん方の意見をお願いしたい。委員Eさんどう思われるか。

委　員　E：大規模校の話を聞くと、デメリットの方が多いかなと感じる。わたし自身、最初は１校がいいと思ってずっと会議に参加していた。しかし、地元に戻ると、周りからは、「やっぱり地元に小学校はあった方がいいよね」ということをよく言われる。でも、審議会の時には１校がいいかなと思う反面、１校にするとなると、低学年の子どもの通学が大変という親の気持ちとしてのデメリットを考える。きめ細やかな教育ができるとなれば、大規模校にはせずに、地元に学校を残していただきたいなという思いもある。しかし、今後どうしても学校再編を考えていかなければならないという現実。わたしは学校からの推薦で委員として参加しているが、福富地域では、２、３年前にコミュニティスクールで小中一貫のお話があったが、消滅した経緯がある。その時話が進んでおけば、福富地域において、今こういう議論はなかったのかなと思う部分もある。今回１校、２校への再編の話をしているが、地元に戻り、保護者と話す時と、この審議会で話す時とではニュアンスが違っており、どうしても板挟みになってしまう。低学年の保護者ほど、通学距離の問題があるので、「３年生まででいいので地元に通わせてもらえないか」という考えがあるようだ。わたしたち以上に地元の保護者の皆さんは、そういった議論をされている。どう説明していいかというのは難しいが、審議会で１校、２校に向かって進む中で、どっちがいいのか、わたし自身も考えながら、勉強しながらやっていかないといけない。養護教諭の問題とか、きめ細やかな教育の問題とかある中で、果たしてどちらがいいのかということ。少人数でも学校が存在した方がよいのか、日を追うごとに、自身の考えがだんだん難しくなってきているなという実感である。

議　　　長：ありがとうございました。では、委員Fさんどうか。

委　員　F：わたしは最初３校案がいいと思った。それは素案を読んでのこと。わたしにも保育園児と小学生がいるので、統合するのであれば、ちょうど関わることになる。一般論だと思うが、やっぱり親としては、学校まで遠いということがすごく気になる。１校案、２校案にしても、福富地域からのみ学校がなくなるようなかたちになる。わたしは福富に来て１０年くらいになるが、やっぱり自分の子どもは近くの学校に通わせたいと思う。今まで福富に住んできた人たちの中には、地元の学校が無くなるのは絶対反対という方がたくさんいらっしゃると思う。でも、わたしは２校案がいいと思っている。理由は、やはりそういった考えを持つのは、今からの白石町の将来に繋がらないということ、教育においては、子どもの人数が少なくなってきているから、適正規模を考え、改修工事や新築が必要だということでの統合再編の話だと思うからだ。新白石町となったが、福富・白石・有明と今まで、コミュニティがすごく強かった分、教育以外にも農業関係、スポーツ関係とかも、まだまだ３つに分かれている部分がたくさんある。考え方もそれぞれで、まだ１つになっていないというところがある。でも、教育においては、今からは１つで考えていかないといけないと思う。福富・白石・有明どこに住んでいる子どもたちも、みんなわたしたちの町の子どもたちなんだよ、みんなで守り、みんなで育てて行かないといけないよ、というふうに、子どもたち以外の周りの大人たちの考えを変えないといけないと思う。変えていくことから、いい学校を作ることに繋がるのではないかと思う。校区の話も出たのだが、わたしは少し有明の方を広げて、白石町内に小学校を２つ、例えば白石第１小学校、白石第２小学校みたいな感じで、白石町全体で、今から子どもたちを盛り上げて行こう、という感じの考え方に変えて行くと、いろんな問題が少しよくなるのかなと思う。１校案もいいなと思ったが、子どもたちのことを考えると適正規模になるまでの間にも、子どもはその学校に通うわけなので、やはり人数が多いといいこともあるが、デメリットの方がすごく気になるので、２校で校区を少し広げてみたらどうかというのがわたしの意見である。

議　　　長：ありがとうございました。委員Gさんどうか。

委　員　G：わたしの子どもは小中学校を卒業してしまったので、なかなか親としての意見というのが、離れてしまっているのだが、近くの保護者に聞いたりすると、やっぱり地元に学校があって欲しいという意見は聞く。自力で学校に登校して欲しい、毎日の送り迎えが必要となれば厳しい、子どもたちが歩いて行ける距離に学校があった方が安心ではある、というのを聞く。自分たちの通ってきた学校が無くなるというのは、寂しいということもあるとは思う。１０年１５年後に子どもたちが少なくなるということでの統合再編ではあるが、今の中学生、高校生の中で、地元に残るという子どもたちが多くなったら、人口が増えて来るのではないかなと思ってはいるのだが。なかなか仕事が地元にないことで、みんな町外に出て行ってしまうというのが現実。子どもが減っていくことばかり考えるのではなく、増やす方の考えも出てきたらいいのではないかなというふうには思っている。

議　　　長：ありがとうございました。委員Hさんどうか。

委　員　H：先に質問をよいか。資料５３の表の下２つで、2020年で学級数を比べたら、34と34だが、2025年だと28と30、2030年だと24と30、となっているが、ここのずれというのは計算の切り上げ、切り捨てみたいな感じでのずれということでよろしいか。

事　務　局：１学級４０人、１年生は３５人学級でこの児童数を出したということである。

委　員　H：ありがとうございます。肌感覚で言うと、９００人、１,０００人規模の小学校であれば１学年４クラスから５クラスとなり、わたしたち世代から言えば当たり前であったような人数なので、別に問題なく行けるのかなという気はするが、最近の子どもたちの心身と言うか、先ほどの保健室の問題など、深刻みたいなので、自分たちの時代とは違うのだというのを考えれば、現場の先生たちの意見というのはものすごく大事なのだなと思いながら聞いていた。現有明中学校の耐用年数は2045年、2046年あたりだったと思う。感情論は考えずに、財政面や数字だけで見れば、令和７年あたりにある程度の規模の学校を１校新築しておいて、その１０年、１５年後というところで、有明中学校も耐用年数が来るので、その時に一緒になるというのがひとつの形なのかなという気はするが、先ほどお２人がおっしゃられたように、やはり地元に小学校があって欲しいという感情というのは、どうしても出て来るので、その辺をどうやってケアしていくのかなという気はする。自分の中では、先ほど申し上げたように、まず１校新築しておいて、有明地域を後で一緒にするという形になりそうなのかなという気はしている。

議　　　長：ありがとうございました。委員Iさんどうか。

委　員　I：わたし自体は、２校でどうなのかなと思っている。先ほど言われていたと思うが、有明地域の児童数が少ないので、もう少し校区を広げてみてはどうだろうか。白石地域と有明地域の子どもたちの割合を２対１ではなく、１対１になるように校区を広げて、白石町には小学校が２校あるという感じにしたらいいのではないかという思いはある。学校を中心とした通学距離の輪を見ていると、重なる部分が多い。場所的に白石小学校あたりを改築すると、重なる部分が多くなるので、もう少し福富寄りに建設したらどうだろうかと思う。そうすれば西と東に散らばるので、子どもたちの通学支援が広範囲にならないですむのではないかと考える。また、大規模校になった場合、保健室の問題等、わたしが子どもだった頃とは違うのかなと感じる。児童が多すぎるのでテレビ集会で対応していますという学校があったが、たぶん今だったらICTとかそういったのが出て来ているので、教室に居てパソコンの画面に先生が映ってとか、そういったことでの対応はできるとは思うが、やっぱり子どもたち個々のケアをと考えると難しい気がする。白石町で育った子どもたちが大人になった時に、自分の子どもを白石町で育てたいなと思って、白石町に戻って来ようと思ってくれるような教育や環境を作ってあげられたらいいなと思っている。

議　　　長：ありがとうございました。委員Jさんどうか。

委　員　J：わたしも何校かと言われると悩む。考えがまとまってはいないのだが、ハード面でいう環境インフラを整える、というのはひとつの問題だと思う。だから何校がいいのかという事が現在話されていると思う。もうひとつ、ソフト面で言うと、子どもたちの状態を考える。わたしは実際子どもたちに関わっているが、今の子どもたちは１０年前の子どもたちと様態が全然違う。だから、こういった子どもの状態とかを考えると、もう学習だけではなく、今は学校の中にソーシャルワークがどんどん入って来るような時代になってきている。そういった環境インフラと学校のソフト面を考える時に、わたしの意見としては、１校にするとあまりにも大変になるのではないかなと思う。大規模になれば大規模になるほどそう思う。それはなぜかと言うと、今現在もそうだが、またこの先１０年後の子どもたちのことを考えると、不登校もどんどん増えていき、先生たちにとっては勉強を教えるだけの問題になっていないから。だから、本当に大きな学校になってくると、そこらへんが大変になるのではないかなというふうに思っている。

議　　　長：ありがとうございました。委員Kさんお願いする。

委　員　K：この審議会に参加させていただき、中学校の統合再編、今回の小学校の統合再編においては、何校がいいかというのは非常に頭の痛いところ。わたしの思いとしてはやはり３校で、各地域に１校ずつ残して欲しい。今回、白石町の学校統合再編だよりというのが初めて全戸配布された。広報白石では、毎月審議経過の記事が載っているが、やはりこの再編だよりを町民の皆さんが見られた時に、こういうことで審議を行っているんだなということは理解されると思うが、果たしてこれが本当に子どもたちのためなのかと感じる方もいるのではないか。確かに先ほどいただいた資料の人口推計を見ると、そのうち子どもたちはいなくなるのではないかと感じる方もいると思う。佐賀県内でも、人口がどんどん増えている市町もある。基山町、江北町あたりはどんどん家が建ち、人口が増えて、学校も設備も整っているというようなことを新聞で見た。やはり小学校は地域と一緒にやっていくべきだと感じる。白石町は東西南北１０㎞近くあるのに、１校にするというのは非常にリスクがあるのではないかと思っている。わたしはよく三日月小中学校の前を通るのだが、何か行事があるときは車がいっぱい。先生や保護者、ある時は警備会社の方が交通整理をしている。事故もたびたび起こっているのも目にする。子どもたちが多くなると事故の発生も多くなるのではと心配している。

議　　　長：ありがとうございます。本日はある程度、学校の数について少し議論を進めて行きたいと思う。そして校区についても、それぞれ考えてくるということだったので、そのあたりの意見を出していただければと思う。諮問を受けているので、まずは学校の数について、それから校区をどうするかというようなことで、議論を進めなくてはいけないと思う。そういったあたりを中心に話をしていただければと思う。まず、前回から１校、２校、３校という案もあったが、それぞれ1校案、２校案、３校案というようなことで、意見をお持ちの方はお願いする。

委　員　Ｄ：今日の資料５３を見て、さらに悩ましくなったなという印象をもつところ。前回の会議でも２校案と１校案があった。最終的には１校になるというのは皆さんイメージされていると思うが、この資料を見ると、2040年あたりには１校にならざるを得ないという感じはある。最終的には１校だが、それまでの約２０年間をどう過ごすかがむしろ課題であると思う。今日の事務局の説明により、わたしは2040年あたりの時に、大きな校舎で小学生が活動しながら、高齢者の方が来られて一緒にパソコンを学んでいる姿や、お母さん方と一緒にダンスをやっている姿を理想的な環境としてイメージした。すでにそのあたりに視点を置いて校舎を作るとか、それを見越して理想に近い教育活動の展開であったり、学校づくりをする。あと、地域との連携も十分にとれた環境をイメージするところ。そのあたりの目的、将来ビジョンを見据えた答申にすれば、結果的には素晴らしい答申になっていくのかなという思いはある。３２０人程度の通学支援、大規模校であるがゆえに子どもたちの負担にならないかという大きな心配があるので、そこをどう考えるかが大事。今日の資料からすると１校の方が望ましいのだろうというメッセージ性は十分にあるような気がする。ただ、子どもたちの実態を考えた時に、本当に１校でいいのか、１校が理想かもしれないが、子どもたちのためだというのを考えると、１５年から２０年間は２校でいった方がいいのではないかと思っている。

議　　　長：ありがとうございました。一足飛びに大規模校となるのか、あるいは段階的に児童生徒数の推移に合わせて、将来的に１校にもっていくのかというような議論もあったと思う。まずここで、３校案でなければいけないという方はいらっしゃるか？３校案は議論の対象ではないということでよろしいか？

委　員　Ｌ：それは福富から学校が無くなるという話になるのだから、福富地域の方に聞くべきではないのか。有明地域・白石地域が３校案を主張するのもおかしい話。１校、２校への再編であれば、福富地域から学校が無くなるわけで。もし有明地域から学校が無くなるというのであれば、わたしは地元が大好きなので、３校がよい。小学生の登下校の声が、おじちゃん、おばちゃんの力になっているのは分かりきっていること。令和２７年頃に１校になるのはしょうがないが、現在まだ１,０００人いる中で、いつから統合再編して２校、１校になるのか、それとももう少し先送りにして１校になるのか、というところ。

議　　　長：３校からいきなり１校というのもひとつの手かもしれないが、小規模校が小規模校のままでいけば、子どもたちに不便を掛けるからという理由で、再編を考えなければいけないということである。そういった考えで、意見を出していただければと思う。３校案の意見がなければ、３校案を対象から外して、２校、１校で議論をいただければと思うがいかがか。なければ、前回から意見を聞いていて、やや収斂したかなという感じもしている。最初は２校、そして後々１校にまとまる、そんな考え方かなという気はしているが、皆さん方いかがか。これで決を採るというのも、なかなか難しいと思うので、少し待ってという方がいたら、意見をいただき、また議論を進めて行きたいと思う。

委　員　Ｍ：１校にしたらどうなのかというのをだいぶ頭の中で考えていた。子どもたちのことを一番に考えれば、やっぱり適正規模にこだわるべきだとわたし自身思っている。そう思うと、将来適正規模を割ってしまうから、今は少し我慢してでも、将来のことを思って１校で初めてみよう、というふうには到底思えない。今回の資料を見れば、誰しも将来を見据えたら１校だということしか見えて来ないと思う。前回も議論しているが、結局減ることしか考えないということなのかもわからないが、増やす施策はもともとないのかなと思う。わたしたちもそれに何か協力できることがあればと思うが、増やす施策を作るのはわたしたちでもなんでもないし、どこがやるかということではあると思うが。でも、将来減るから１校に、だから答申にも将来適正規模を割るから１校になりますよ、というふうな話になるのかどうか。なんかそのあたりが堂々巡りで回ってしまっている。わたしが主張するのは、小学校２校で、校区を変えてでも、その適正規模が長く続く、推計の中でも長く続けられるような策はないのかなというふうに思ってはいる。最初から１校になってしまうことで、では、将来１校を見据えてというのも、頭の中で整理がつかなくなってきたなというふうに思っている。ただやっぱり２校で校区を変えてというわたしの考え方には、ブレはない。なぜかと言うと、今の子どもたちも含めて、これから何年か後の子どもたちのことも考えると、やっぱり適正規模を重視する目線でと考えると、そうせざるを得ないのかなというふうに思っている。

議　　　長：ありがとうございました。他に何かないか。

委　員　Ｂ：私も委員Ｍの意見にかなり似ている。将来１校にするというのを答申に盛り込むのかという話も前回あげたが、そこは子どもたちにも町民の方にも、「将来は１校になるんだ、そんなものなのね」というふうに思わせていいのかという気持ちはある。もうひとつは、もともとわたしは１校案ではあったが、よくよく考えてみると、子どものことを考えて適正規模が設けられているわけである。教育には何が必要かということを考えて適正規模というのが設けられているとすれば、そこは重視しないといけないのかなと強く思っている。そういうことからすると、やはり２校は大事なのかなと思う。将来の人口推計は正確にはわからないものなので、そこの議論をするのかなという気もする。ただ、有明地域が少ないというのは目に見えていること。それについて、前回、学区を広げるという考えはないという感じで事務局が言われたことが、少し悲しかった。それもおかしい話で、やってもいないのに、どうしてできないと言うのか、わたしはわからなかった。子どものことを考えて、わたしたちは議論をしているのだったら、そこはやってみないといけないのかな、という気はしている。だから、わたしは委員Ｍと同意見で、適正規模を考えて２校、それに見合う児童数の振分けは必要なのかなと思っている。

議　　　長：ありがとうございました。だいたい２校案が出て来ているようだが。

委　員　Ｅ：この議論において、福富から学校が無くなるということは、地元の人たちには間違いなく不満である。この会議に参加しているが、地元の方にどうだったか聞かれても、感情論過ぎて答えきれないところがある。では、福富地域に学校を残せる方法はないのか？残さないのだったら、町内みんなシャッフルしてきれいに２つに割るというやり方もひとつあると思う。ここで、福富・有明・白石の地域感情を壊してしまわないと、前に進んで行かないと思う。コミュニティは必要だが、後に１校にするという前提で動くのならば、そこをすべて無くしてしまって、全く新しい学校、白石第１小学校、白石第２小学校というような作り方をして行かないといけないと考える。人口を見て、「やっぱり福富が無くなったね」と言われるのもきついものがある。適正規模を考え、どこで線引きをして、どの場所に学校を作っていくかということでの２校ならば、皆さんも納得するだろうが、福富地域が白石地域にくっついて、有明地域は残して、という議論が果たして、福富地域の皆さんに受け入れられるのかということ。そこを一番心配している。先ほど言われたように、２対１の比ではなく、１対１になるように全体を割って、そこで学校を作るという考え方も必要ではないかと思う。

議　　　長：ありがとうございました。だいたい２校に収斂されたかなと思うが、学区については皆さんどうお考えか。今の学区をきれいに崩して、再編するということになれば、学校の規模としては、２対１という感じにはならないというようなことにもなるが。

委　員　Ｎ：２校案が出ているが、この表から見てとれるように、人口が減少していくから、いずれは１校になるだろうと思うと、とても悲しくなってしまう。“人口が減少していくから１校になる可能性がある”という表現ではなく、“よりよい学校を目指すために、１校になる可能性がある”みたいな書き方をしていけばいいのかなと思った。人数が少なくなってもそのままであることもある。考え方だと思うので、減少を強調しないでやっていけばいいのかなと思った。白石町には対等な学校が２校あり、すべて同じような教育環境で行く、どちらも対等です、というような方向で行けばいいのかなと思う。いずれそうなることを前提に考えていけば、あまりみじめな気持ちにならなくていいのかなと思った。

議　　　長：ありがとうございました。学区について、少し議論をしていただければと思う。学区を新しく再編するというようなことでいくのか、あるいは今まで通り、有明地域、白石地域、福富地域のそれぞれの学区を持ちながら、再編を考えるというような形にするのか、その辺を議論していただければと思う。

委　員　B：諮問の中で、学校の位置を決めないといけないことになっているが、その学校の位置というのは、ピンポイントでここだと決めなくてもいいのかどうか。決めないといけないとなると、なかなか意見というのは求めにくいのかなと思っているが。地理環境等を考慮しながら、やっていかないといけない。

議　　　長：学校の位置までは求められていないと思うが、事務局どうだったか。

委　員　B：諮問には学校数、学校の位置等と書いてあった。そもそも位置の決定は、ピンポイントではなく、大まかな考え方くらいにしないと、おそらく何もまとまらないのかなと思う。委員の皆さんはいろんなお考えを持って、いろんな立場から集まって議論しているので、場所についてはまとまらないのではないか。

事　務　局：今お尋ねの件だが、まず諮問書の中で、小学校の再編策ということで、学校数、学校の位置等としている。この位置は、的確にどこというまでではない。例えば、今までのお話にあっているように、“中心地”とか“北部”とかそういうふうな決め方で結構である。ただ、ひとつのやり方としては、例えば“〇〇小学校を活用して”とか、“白石中学校を活用して”というような言葉が出たが、そのような表現もひとつの位置の表示になる。必ずしも具体的なところでなく、ある程度のところで結構である。

議　　　長：ということでよいか？位置については、“白石町のどのあたり”とか、“北部”とか“南部”とかという言い方もいいし、少し漠然と、頭の中に描けるような位置であればいいのかなという気がする。諮問されているのは、学校数や学校の位置等という格好になっている。学校数は小学校の場合は、２校に収斂されたかなと思っているが、それでよいか。

教　育　長：熱心な審議ありがとうございます。ずっと審議の経緯をここで見させていただいている中、数人の委員さんからも出ましたが、是非審議の視点として、これだけはお分かりいただきたいということで、子どもの状況が非常に変わってきているということを、いくらかお伝えしておきたいと思います。

いろんな面があるのですが、分かりやすいのが、特別支援教育対象の児童生徒です。平成２５年度は小中学校合わせて４５名でした。本年度は１１１名です。内訳は小学校が８６名、中学校が２５名。来年度の見込みが１２７名です。７年間で２．８倍になっています。しかも、今ノーマライゼーションという考え方で、障害のあるなし関わらず、共に学ぶという視点で教育が進んでいますので、障害の種別、知的、情緒、肢体不自由、難聴、病弱、こういったすべての種別についても学校が受け入れるということで進んでおります。この増え方は、白石町ばかりではなくて、県でも全国でも同じ傾向です。どんどん増えています。このことも考慮をしておかないといけません。わたしは今年６６歳になり、わたしの子どもの時代は半世紀も前になるのですが、やっぱり子どもたちの状態というのは比べるまでもなく全然違っているのです。育ちもライフスタイルも経験も。小学校前までに獲得すべきいろんなものも全然違います。そういったことを、頭に入れておかなければならないのです。

不登校についても、皆さん方が小学校の頃はなかったと思います。平成３０年度の統計では、佐賀県で小中合わせて１,３００人くらいいるのです。全国では１２、３万人という数で、いろんな努力がなされているのですが、残念ながら、こちらもどんどん増えています。こういう状況ですので、学校はただ授業をしていればいいというものではないのです。一般の子ども以上に、いろんなところで配慮しなければならない子どもたちを、しっかり社会的に自立させるために、いろんな動きがあるわけです。白石町はスクールアシスタントという制度を全国的にもいち早く、平成２６年度から取り入れています。現在、小中合わせて５２名の方に教室に入っていただいています。いわゆる普通学級にも特別支援教育の対象ではないが、配慮を要する子どもたちが複数いるので、そういう子どもたちに担任と一緒に付いてもらい、頑張っていただいている状況です。

こういうふうに、子どもたちの状況は大きく変わっています。益々厳しい状況になっています。ただ不登校については、県内でどんどん増えている状況の中、幸い白石町は、踏み止まっています。でも今後はわかりません。これは、学校だけではなく地域、特に家庭、幼児教育、小さい頃からの教育あたりとしっかり連携しなければ、なかなか一朝一夕には解決できない問題なのです。そういった中で、子どもを育てていかなければなりません。そのためのハード面、ソフト面はどうなのかというようなことを是非この審議の柱として考えておいていただきたいという思いで発言させていただきました。

議　　　長：ここで、まとめないといけないような感じだが。少し休憩することにする。

事　務　局：この時計で８時２５分までを休憩とさせていただく。

　　　（休憩後、再開）

議　　　長：審議会を再開する。いろいろと意見を出していただいた。議論をするのに、何かないとやりにくいだろうと思っている。それで、あくまでも案だが、２校での答申案のたたき台を作りたいと思う。それを皆さんで見て、文言等の修正をしていただければと思う。それから、学校の位置等の話もいろいろあった。そういった話の経過も踏まえて、学校の位置もたたき台として作って、皆さん方から意見をいただきながら最終的な案まで持っていきたいと思っているがいかがか。ということで、今日はこれで終わりにしたいと思う。皆さん方、意見を出していただき、出尽くしたと思うので、少し答申案のたたき台を作成して、それについてまた、いろいろ議論していただければ深まると思うので、そのようにしたいと思っている。

事　務　局：それでは、今会長の方からご提案があったように、事務局の方で、たたき台を作ってみたいと思う。それを基にして、お話をいただきたいと思う。それでは、松尾会長、進行ありがとうございました。

５　連絡事項

1. 第１０回審議会の開催日について

　 　第１０回審議会　　１月２１日（火）　１９時～　　福富ゆうあい館研修室

1. その他

６　閉会